雑学書庫 知識の記録

他社が簡単には追いつけない力、コア・コンピタンス（Core Competence）

記事のURL

https://www.gklibrarykor.com/ja/article/15336/

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

ある会社はオートバイから始めて、自動車、芝刈り機、発電機にまで手を広げても違和感がありません。表から見れば製品はばらばらですが、中をのぞくと多くの製品に共通して染み込んだ技術があります。その隠れた力こそが「コア・コンピタンス（Core Competence）」です。 コア・コンピタンスとは、簡単に言えば「組織の中に積み重なった多くの技術と学習が一つに束ねられ、複数の製品や市場に共通して使われる集合的能力」を意味します。単一製品の機能や資産リストではなく、異なる生産技術を調整し、複数の技術の流れを一つに編み上げる能力のことです。この概念は、C.K.プラハラード（C.K. Prahalad）とゲイリー・ハメル（Gary Hamel）が1990年にハーバード・ビジネス・レビューに発表した「企業のコア・コンピタンス（The Core Competence of the Corporation）」で提示しました。 本稿では、コア・コンピタンスの意味と三つの判定基準、木のたとえとよく知られた事例、そしてバリューチェーン・ポーターの5フォースとの簡単な区別と落とし穴まで、順に見ていきます。 追いつきにくい組織の力を読み解く方法 コア・コンピタンスとは何か？ プラハラードとハメルは、企業を事業単位の集まりとしてだけ見ると、長期的な競争力が見えにくいと考えました。事業ごとに予算を分け、実績を別々に測